

民報 ゆうばり

後援会主催「桜まつり」開催

ルールなき資本主義では「企業栄えて民滅ぶ」!



5月12日、南空知党後援会が「さくらまつり」を開催しました。栗沢ふるさととの森・冒険ランドを会場に、夕張、岩見沢、南幌、栗山などから80名がごいました。夕張からは14名が3台の自家用車に分乗し参加しました。前夜の雨もあがり晴天の中、地区党後援会代表世話人の木村賢治さんが主催者あいさつをしました。つづいて真下紀子道議会議員が別項のように激励のあいさつをしました。

乾杯後各グループで焼肉・交流が進む中アコーディオン伴奏つきのおたごいでまつりは楽しく盛り上がり、各地の後援会の豚汁や焼き鳥など出店もあり会場はにぎわいました。初めて参加した方は「とても楽しかった」と感想を寄せてくれました。

「そのために国民は低賃金を受け容れ、地域経済の崩壊を受け容れ、英語の社内公用語化を受け容れ、サービスクロムを受け容れ、消費税を受け容れ、TPPによる農林水産業の壊滅を受け容れ、原発再稼働を受け容れ、原

300時間働ける体力があつて、辞令一本で翌日から海外勤務できるような使い勝手のいい若年労働者を大量に送り出せ」と言っている。国民国家は「食い尽くすまで」は使いでのある資源。

国民国家は使いでのある「資源」
大企業がどんなに大もうけしてもこのままでは「企業栄えて民滅ぶ」

真下道議は：5月8日朝日新聞「オビニオン…壊れゆく日本という国」内田樹氏より：を引用しながら、以下のように述べました。

…安倍政権は、グローバル企業の利害を国民よりも優先するようになってきた。

論理としては、国際競争力のあるグローバル企業が日本経済を牽引するのだから、企業活動を支援せねばならない。(そういう話になっている。)

「コストの外部化」 汚染された環境を税金を使って浄化するの

への政府の支援です。経済同友会は20日、「成長戦略」と『骨太方針』に向けた緊急提言を発表。その中に盛り込まれているのは労働法制の抜本見直しや原発再稼働など、自分たちに都合のいいことばかり。こんな財界・大企業の横暴勝手を野放しにしては、国民生活はよくなるどころか悪化の一途。

日本経済の長年にわたる「デフレ不況」が浮き彫りにしているのは、財界・大企業では、国民の暮らしを応援してこそ、暮らしも経済も立て直せるというところ。大企業が、賃金や雇用を改善せず、ため込みを続けたことが経済の低迷の大きな原因です。大企業に所望と雇用を増やす景気拡大に転換することが、政府の責任です。

参院選挙には、この事を訴え、広げに広げ、がんばりましょう。とむすびました。

議会基本条例説明会・意見交換会開催



5月15日清水沢研修センターで夕張市議会意見交換会が開催されました。午後2時と午後6時からの2回で、合計10名の市民が参加しました。



老朽化した旧ヒュッテを、財政破たんした市が建て替えることもできず、取り壊すと発表したところ、「ユウパリコザクラの会」が募金を募りながら建て替えを決断、5月18日、完成祝賀会が開催されました。

「1口千円、1万人から」募金と、廃校になり取り壊しの決まった老朽化した校舎の廃材などを市からもらいうけ、3年がかりで完成にこぎつけました。

会場には130人が集い、たくさんの来賓が「コザクラの会の皆さん、本当に・本当にお疲れ様でした。」と祝辞をのべていました。(コールボピーのコーラス「ユウパリコザクラ」他がオープニングをかざりました。)

…夕張岳は国から次の指定を受けています…

- ★1996年 国の天然記念物
- ★2012年 日本山岳遺産(道内初)

南清水沢子どもみこし巡回

5月18日南清水沢連合町内会主催で子供みこし巡回が行われ、小学校6年生までを対象に参加した12名ほか、連合町内会役員が午前9時生活館会場を出発し、清水沢学園や清光園などを訪問しながら各町内会を巡回し、正午に帰館しました。



特に施設訪問では学生や高齢者たちは子供たちとの触れ合いを楽しみにしており、ひとりひとりと握手し「お元気でね」の声かけに胸を詰まらせていました

はたやま和也「かけある記」



子どもの笑顔は、五月に似合う

日本共産党道政策委員長

はたやま和也

やっと、やっと各地で桜が開花し始めました。暖かな陽射しがうれしくなる毎日です。札幌で原発ゼロへの「ぼくとわたしの未来行進」がおこなわれ、私も子どもたちを連れて参加しました。会場には子ども連れのパパ・ママなど約三百人！ステージに上る子あり、風船で作った剣でチャンバラする子ありでしたが、そのヤンチャさこそ子どもの子どもたるゆえん。参加者すべてが笑顔の集会というのも、そう多くはありませんよね。寒い日だったのでパレード後に大通公園で茹でとうきびを買って、半分ずつ娘と分けて食べました。体も心もほかに、ここでも笑顔。一方で、親子バラバラに暮らしている福島の現実が頭をよぎりました。避難者の方が「いつも当事者の立場に立って」と話されたことを思い出します。安倍首相は大型連休中、原発メーカーの営業マンに転職したのかと思えるほど、各国へ原発の売り込みに回っていました。先日は維新の会・橋下氏が「慰安婦」問題での暴言を吐きましたが、首相は批判も否定もしない態度でした。この人たちには、避難者・被害者と苦しみをかち合う気がまったくないのでしょいか。情けなくなりませう。相手の立場に立てないことと、侵略戦争の歴史をねじ曲げて憲法を変えようとする政治姿勢とは根っこが同じだと思えます。子どもたちの笑顔あふれる五月を未来にわたって守れるように、参議院選挙でも力を尽くしたいと心から思っています。